

参 考 資 料

- 1 整備の趣旨・目的
- 2 施設概要
- 3 沿革
- 4 組織
- 5 平成29年度人と防災未来センター特別会計収支予算書
- 6 資料室のあらまし
 - (1) 資料室の概要
 - (2) 震災資料の収集・保存事業の経緯
 - (3) 資料室受け入れ資料点数等
 - (4) 震災資料収集・公開の流れと公開形態別資料点数
- 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター
- 8 研修カリキュラム表
- 9 センター刊行物

参考資料 1

整備の趣旨・目的

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、わが国で初めて社会経済的な諸機能が高度に集積する大都市を直撃した直下型地震である阪神・淡路大震災の教訓を後世に残し、震災とその復興過程から得られた知識や知恵を世界に情報発信することによって、世界の災害対策に生かそうという「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想」がその開設の端緒となっている。

震災があった1995年の10月、政府の「阪神・淡路復興委員会」が、復興特定事業のうち極めて意義のあるものとして阪神・淡路大震災記念プロジェクトを提言。そして、国、県、神戸市、民間で同プロジェクト検討委員会が設置され、その後に設立された（財）阪神・淡路大震災記念協会（理事長＝石原信雄・地方自治研究機構理事長（設立当時））で、学者、民間団体代表、行政代表で構成する同センター基本構想検討委員会を設置、1999年5月26日に基本構想（基本的考え方）が公表された。さらに6月には、有識者、行政などによる「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会」（会長＝新野幸次郎・神戸都市問題研究所長）を設置し、「阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想」を策定した。

同年12月、国の1999年度第2次補正予算で、メモリアルセンター施設整備費約60億円の2分の1にあたる約30億円が国庫補助金として予算措置され、2000年度以降の各年度においても、運営費補助が計上されることとなった。

さらに、政府の「阪神・淡路復興対策本部」の最後の会合が、翌2000年2月22日に開かれ、同センターの整備事業が復興特定事業に追加選定された。

「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想（基本的考え方）」によると、同センター構想は「人類史上初めての高齢社会下の大都市直下型地震による大災害であった阪神・淡路大震災により、我々は生命の尊厳やともに生きることの重要性、近代都市の脆弱性など、人類が営々と築き上げてきた20世紀文明に対する反省と教訓を得た」との認識を基に、「はからずも露呈した近代都市や近代文明の災害に対する脆弱さからは、『人と自然との共生』が、また復興過程でコミュニティやボランティアが果たした役割の大きさからは『人と人との共生』が、それぞれ重要な概念として認識されることになった。わが国は地震列島であり、将来、再び大地震が都市を襲う可能性を多分に有しており、震災から得られた反省と教訓を生かし、世界中で今後起こり得る同様の災害の防災と、それからの復旧・復興に貢献する義務がある。阪神・淡路地域こそ、世界における震災復興のフロンティアでありモデルであるとの自覚のもと、来るべき21世紀の世界に貢献し得る役割を担おう」との趣旨でまとめられた。

2000年度には、「展示・交流検討委員会」、「人材育成等検討委員会」を設置し、展示内容や、調査研究活動、人材育成等のソフトについて、各界の代表者等からの意見等をふまえて具体化に向けた検討を精力的に重ねていった。

さらに、「メモリアルセンターフォーラム」等の開催を通じて、一般県民等からの期待や意見についても把握し、委員会等での検討に供した。

そして、2001年1月に一期施設「防災未来館」の建築工事に着手し、翌2002年3月末に施設が完成し、4月21日に皇太子同妃両殿下をお迎えして、開館記念式典が執り行われ、4月27日から一般公開された。

さらに、2001年11月には二期施設「ひと未来館」の建築工事に着手し、2003年3月末



に施設が完成した。4月24日には、開館記念式典が防災担当大臣等のご参列のもと行われるとともに、翌25日には、「いのちの尊さと、ともに生きることの素晴らしさーひと未来館の展示がめざすものー」をテーマとした鼎談など開館記念イベントが開催された。

4月26日から一般に公開され、ここに阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターはグランドオープンに至った。

震災から復興が進むなか、防災未来館の展示については、センター開設後の時間経過に伴う復興への新たな課題と情報の追記、防災・減災に関する情報発信の強化等が必要となったため、2005年9月に学識者等で構成する「人と防災未来センター展示検討委員会」を設置し、展示更新内容について検討を重ね、2006年7月に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター展示検討報告書」をとりまとめた。

2007年には、その内容を踏まえて、一期施設「防災未来館」において展示のリニューアルを実施し、2008年1月9日から一般に公開した。

また、「ひと未来館」においては、阪神・淡路大震災の教訓としての「いのちの尊さ」や「共に生きることの大切さ」を伝える展示を行ってきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、2009年3月末をもってひと未来館としての展示を休止し、風水害に関する防災展示を充実する等の改修を経て、2010年1月8日から再オープンした。併せて、「防災未来館」を「西館」、また「ひと未来館」を「東館」と館の名称を変更したほか、入館料金体系を見直し、両館の一体的な展示運営を行っている。

震災20年を機に、震災の経験と教訓の継承、防災・減災情報の発信の拠点施設としてのシンボル性を高めるために、2015年3月27日から西館の北面及び西面で原則毎週金・土曜日にライトアップを始め、同年10月23日からは、西館の東面及び南面のライトアップを追加して、西館4面で毎日ライトアップを行っている。

また、復興のモデル地区であるH A T神戸に立地するセンターとして、この地域の魅力や発進力を高めるため、センター西館の夜間ライトアップを活用した交流イベント「H A T減災チャレンジ」を平成28年度から毎年開催している、

参考資料 2

施設概要

1 施設概要

区 分	西館（旧防災未来館）	東館（旧ひと未来館）
施設概要	鉄骨造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階、塔屋 1 階 建面積：1,887.80 m ² 延面積：8,557.69 m ²	鉄骨造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階、塔屋 1 階 建面積：2,059.97 m ² 延面積：10,197.08 m ²
施設整備費	約 60 億円（国 1/2、県 1/2）	約 61 億円（県 10/10）
整備スケジュール	平成 12 年 3 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 1 月 建築工事着工 平成 14 年 3 月 完成 4 月 27 日オープン 平成 19 年 12 月 29 日 展示改修のため休止 平成 20 年 1 月 9 日 リニューアルオープン	平成 12 年 9 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 11 月 建築工事着工 平成 15 年 3 月 完成 4 月 26 日オープン 平成 21 年 4 月 1 日 展示運営を休止 平成 22 年 1 月 8 日 再オープン

2 建物内概念図（平成 30 年 3 月 31 日現在）

西 館		東 館	
		有料ゾーン	
7F	機械室	機 械 室	
6F	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 事業部（事業課・普及課） 研究部		（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構
5F	事業部（運営課） 資料室		アジア防災センター 国際エメックスセンター 国際防災復興協力機構 国連国際防災戦略事務局駐日事務所 国連人道問題調整事務所神戸事務所 瀬戸内海環境保全協会 地球環境戦略研究機関関西研究センター
4F	展示部門（震災追体験フロア）		アジア太平洋地球変動研究ネットワークセンター 兵庫県立大学防災教育センター 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
3F	展示部門（震災の記憶フロア）		展示部門（水と減災について学ぶフロア）
2F	展示部門 （防災・減災体験フロア）		通路
1F	総合案内、ロビー、ガイダンスルーム 等		レストラン・ ミュージアム ショップ
			展示部門 （こころのシアター）

参考資料 3

沿革

< 1999 年 (平成 11 年) >

- 2.17 (財) 阪神・淡路大震災記念協会に「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想検討委員会」を設置
- 5.26 阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想のとりまとめ・公表
- 6. 2 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会の設立
- 6.12 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会専門委員会の開催
- 6.28 阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想のとりまとめ・公表
- 11.12 国土庁長官が記者会見で「メモリアルセンターの施設整備費について 11 年度補正において所要の補助金を計上する。運営費についても平成 12 年度以降の各年度において所要の補助金を計上する」旨発表
- 12. 9 国の平成 11 年度第 2 次補正予算 (11 月補正) が成立。メモリアルセンター施設整備費 (約 60 億円)、うち国庫補助金 (約 30 億円) が予算措置
- 12.24 メモリアルセンター運営費補助金 (12 年度分 63 百万円) が盛り込まれた国の平成 12 年度当初予算が閣議決定

< 2000 年 (平成 12 年) >

- 1.29 「阪神・淡路大震災メモリアルセンター設計プロポーザル選考委員会」の設置。第 1 回委員会を開催し、選考基準、プロポーザル作成要領を検討
- 2.22 「阪神・淡路大震災復興対策本部」最終会合でセンター整備事業が復興特定事業に追加選定
- 2.26 第 2 回選考委員会において、最適設計者を選定
- 3.22 1 期設計委託契約締結
- 5. 8 第 1 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.19 第 2 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.26 第 1 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 5.27 第 2 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 6.17 第 3 回「展示・交流検討委員会」開催
- 8.28 第 4 回「展示・交流検討委員会」開催
- 9.18 ヘルスケアパーク構想のうち県立のミュージアム部分をメモリアルセンター 2 期として整備することを決定
- 9.29 2 期設計委託契約締結
- 10.14 第 1 回メモリアルセンターフォーラム開催
- 10.27 第 5 回「展示・交流検討委員会」開催
- 12.12 第 3 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 12.27 第 1 回「人材育成等検討委員会」開催

< 2001 年 (平成 13 年) >

- 1. 6 1 期建築工事安全祈願祭開催 (工事着工)
- 1.15 センター長に河田恵昭京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授が内定、発表

- 2.19 第6回「展示・交流検討委員会」開催
- 4.28 第7回「展示・交流検討委員会」開催
- 10.10 2期建築工事発注
- 10.30 第1回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 10.31 第1回名称募集審査委員会開催
- 11. 9 2期建築工事安全祈願祭開催
- 11.27 第2回名称募集審査委員会開催
- 12. 4 1期展示工事安全祈願祭開催
- 12.11 第1回展示監修者会議開催
- 12.19 第2回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 12.19 2期展示製作委託発注

< 2002 年 (平成 14 年) >

- 1. 7 正式名称を「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」に決定、発表
- 1.21 第2回展示監修者会議開催
- 3.31 1期施設「防災未来館」完成
- 4.21 開設記念式典開催
- 4.23 開設記念シンポジウム開催
- 4.27 「防災未来館」展示一般公開

< 2003 年 (平成 15 年) >

- 3.31 2期施設「ひと未来館」完成
- 4.24 開設記念式典開催
- 4.25 開設記念イベント開催
- 4.26 「ひと未来館」展示一般公開

< 2007 年 (平成 19 年) >

- 12.29 「防災未来館」展示改修のため休止

< 2008 年 (平成 20 年) >

- 1. 8 「防災未来館」展示リニューアル記念式典
- 1. 9 「防災未来館」展示リニューアルオープン (一般公開)

< 2009 年 (平成 21 年) >

- 3.31 「ひと未来館」展示運営を休止

< 2010 年 (平成 22 年) >

- 1. 8 「ひと未来館」展示再オープン (一般公開)
併せて、館の名称について「防災未来館」を「西館」、「ひと未来館」を「東館」に変更、また入館料金体系を変更

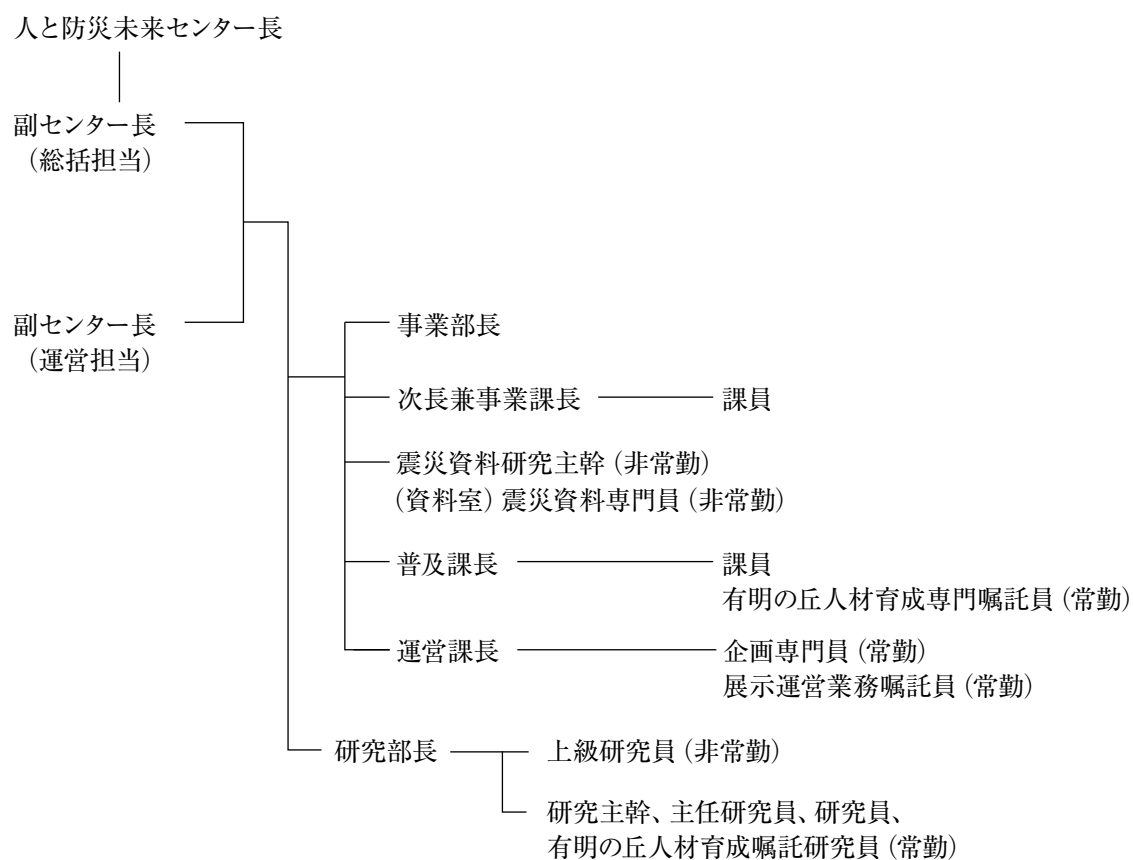
< 2015 年 (平成 27 年) >

- 3.27 西館 (北面、西面) で夜間ライトアップ開始 (原則金、土曜日)
- 10.23 西館 (東面、南面) を追加し、西館4面でライトアップを実施 (毎日)

参考資料4

組織

(平成30年3月31日現在)



職員数

(単位：人)

所 属	職 員	非常勤職員	日々雇用職員	計
センター長・副センター長	2	1	0	3
事業部				
事業課	4	5	0	9
普及課	3	0	0	3
運営課	3	0	0	3
研究部	11	0	0	11
計	23	6	0	29

- ・ 事業部長は事業課職員に含む。
- ・ 震災資料研究主幹、震災資料専門員は事業課非常勤職員に含む。
- ・ 有明の丘人材育成専門嘱託員は普及課職員に含む。
- ・ 運営課の企画専門員と展示運営業務嘱託員は運営課職員に含む。
- ・ 研究部は有明の丘人材育成嘱託研究員を含み、上級研究員と特別研究調査員は除く。

・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構管理部、研究戦略センター及びこころのケアセンターの本務職員は除く。

参考資料 5

平成 29 年度 人と防災未来センター特別会計収支予算書

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

(単位：千円)

科 目	予算額			備 考
	29 年度当初	28 年度当初	増 減	
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1) 事業収入	78,347	86,246	△ 7,899	
① 入館料収入	(43,150)	(49,278)	(△ 6,128)	クールスポット終了による減
② 駐車場等収入	(35,197)	(36,968)	(△ 1,771)	テナント面積見直しによる減
(2) 補助金等収入	766,552	721,947	44,605	
① 指定管理料収入	(601,895)	(571,725)	(30,170)	事業費の増
② 県交付金収入	(91,055)	(91,055)	(0)	
③ 補助金等収入	(73,602)	(58,159)	(15,443)	科研費等の増
④ 国等受託収入	(0)	(1,008)	(△ 1,008)	受託事業の減
(3) 雑収入	29,935	30,332	△ 397	
① 受取利息	(1)	(1)	(0)	
② 雑収入	(29,934)	(30,331)	(△ 397)	
事業活動収入計	874,834	838,525	36,309	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	878,971	840,385	38,586	
① 施設運営等事業費支出	(549,536)	(524,337)	(25,199)	事業費の増
② 研究調査等事業費支出	(153,590)	(153,590)	(0)	
③ センター利用事業費支出	(63,383)	(65,415)	(△ 2,032)	光熱水費の減
④ 研究受託等事業費支出	(21,407)	(5,988)	(15,419)	科研費等の増
⑤ ひょうご安全の日関連事業費支出	(91,055)	(91,055)	(0)	
事業活動支出計	878,971	840,385	38,586	
事業活動収支差額	△ 4,137	△ 1,860	△ 2,277	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出	1,000	1,000	0	
退職給付引当資産取得支出	(1,000)	(1,000)	(0)	
投資活動支出計	1,000	1,000	0	
投資活動収支差額	△ 1,000	△ 1,000	0	
当期収支差額	△ 5,137	△ 2,860	△ 2,277	
前期繰越収支差額	17,951	14,767	3,184	
次期繰越収支差額	12,814	11,907	907	



参考資料 6 - (1)

資料室の概要

資料室では、阪神・淡路大震災に関連する一次資料（紙、モノ、写真、映像・音声）及び災害や防災に関する二次資料（図書、ビデオ、DVD など）を検索・閲覧できる。

（１）資料室の体制

平成 29 年度は震災資料研究主幹（牧紀男・京都大学防災研究所教授）のもと、震災資料（実物資料である一次資料、図書やビデオなどの二次資料）を担当する震災資料専門員 4 名により資料室の業務運営を行った。

（２）資料室の主な業務

- ① 震災資料の調査、収集、整理、保存
- ② 震災・防災およびその関連領域に関するレファレンス業務
- ③ 震災一次資料の閲覧申請、館外貸出等についての対応
- ④ 震災学習、防災教育に関するビデオ・DVD の貸出し
- ⑤ 震災、防災に関する情報発信
- ⑥ 他機関との連携

（３）資料室における資料の閲覧・複写および利用者サービス

① 資料の閲覧・複写

一次資料は、適切な温度・湿度のもとで管理する必要があるため、収蔵庫で保存している。来室者が閲覧を希望する場合、申請書類の提出に基づき資料専門員が出納する。

二次資料である図書、雑誌、ビデオ、CD-ROM、DVD などは開架式で自由に閲覧でき、資料室内コピー機で複写もできる（有料）。

② 利用者サービス

震災資料の受け入れ、資料の貸出しに関する相談を受け付けているほか、震災や防災に関する相談に対して、参考資料の提案も行っている。

（４）資料室の設備

① 閲覧スペース

閲覧席約 10 席、ソファ

② 震災資料検索用パソコン 2 台

・一次資料、二次資料のデータベース検索

一次資料については調査先に関するデータ（所在地、氏名など）やキーワードで、二次資料については書名、著者名、出版社名やキーワードで検索する。

資料の検索はセンターホームページ（<http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp>）でも可能である。

・神戸新聞記事データベース検索

阪神・淡路大震災以降の神戸新聞の記事（地方版を含む）の見出し・本文が閲覧できる。キーワード及び発行年月日で検索できる。



震災資料検索用パソコン

③ 資料閲覧用パソコン 3台

映像・音声資料の視聴や、以下の閲覧ができる。

・阪神・淡路大震災 犠牲者の記録

震災犠牲者聞き語り調査会が遺族への聞き取り結果をまとめた「犠牲者の記録」の一部を公開している。震災犠牲者ひとり一人の記録をPDFファイルで閲覧できる。

④ 映像上映モニター

所蔵する映像資料のなかから、震災の記録映像等を再生している。

野田北ふるさとネット・野田北部を記録する会制作、青池憲司監督

『野田北部鷹取の人びと』

野田北部を記録する会 製作

『市民が撮った震災映像アーカイブ 市民編』

神戸市広報課職員 松崎太亮 撮影

『フェニックスプラザミニシアター展示映像（英語版）』

阪神・淡路大震災復興支援館—フェニックスプラザ— 編

⑤ ぼうさいみらい子ども文庫

平成22年1月、阪神・淡路大震災15年にあたり、次代を担う子どもたちに震災の経験と教訓を伝えるため、国際ソロプチミスト神戸からの寄贈により、資料室内に開設した。主に児童向けの図書、ビデオ・DVDの閲覧ほか、防災を学ぶゲームも体験できる。図書やDVD、ゲーム等の資料は、現在も収集を継続している。

○ 配架資料等（平成30年3月現在）

・図書（絵本） 約320点

・ビデオ等 約30点

・防災を学ぶゲーム、紙芝居、CD等



ぼうさいみらい子ども文庫

(5) 資料室における配布物

震災及び防災についてより多くの人々に発信するため、次の資料などを配布している。

- ・ 資料室パンフレット
- ・ 資料室ニュース
(センターホームページからダウンロード可能)
http://www.dri.ne.jp/material/material_news
- ・ 災害学習ノート
- ・ くらしと震災学習ノート
- ・ くらしと震災学習ノート (英語版)
- ・ 震災資料集 vol.2『所蔵資料図録—暮らしのなかの震災資料—』
- ・ 防災関連イベントのチラシ等

震災資料の収集・保存事業の経緯

概略

阪神・淡路大震災の被害を伝える資料の収集は、平成7年10月から、兵庫県の委託を受けた(財)21世紀ひようご創造協会が「震災とその復興に関する資料・記録の収集・保存事業」として始めた。

平成10年4月以降は、(財)阪神・淡路大震災記念協会が引き継いで収集事業を続け、公開基準の検討を行った。

平成12年6月からは、兵庫県の「緊急地域雇用特別交付金事業」を用いた大規模な震災資料の調査事業が、2年にわたって行われた。延べ約450人の調査員が各種NPO等団体、復興公営住宅、学校などを訪ね、チラシ・ノート・写真・避難所が使用された物など、生の資料を集めた。(財)21世紀ひようご創造協会や(財)阪神・淡路大震災記念協会が収集したものを含め、平成13年度末までに約16万点の資料が収集された。

平成14年4月に開館した人と防災未来センターでは、こうして収集された資料を引き継ぎ、資料室において、一次資料として保存、公開、活用している。

年表

- 平成7年 3月 阪神大震災地元NGO救援連絡会議に「震災・活動記録室」を設置。
- 5月 神戸大学附属図書館震災文庫が本格的に震災資料収集活動を開始。
兵庫県立図書館、神戸市立図書館でも、一次資料を含む震災資料の収集を開始。
自治体、図書館、史料保存団体の有志、歴史研究者などによる相互協力活動の開始。
- 10月 (財)21世紀ひようご創造協会が兵庫県の委託を受けて震災資料収集事業を開始。
- 平成8年12月 非常勤嘱託(3名)を雇用。旧避難所等を中心に調査。
- 平成10年4月 (財)阪神・淡路大震災記念協会が収集事業を引き継ぐ。事業の一つとして、「阪神・淡路大震災に係る既存情報の収集整理・保存」が位置づけられる。仮設住宅、ボランティアグループを中心に一次資料の調査。
- 6月 「震災資料の分類・公開基準研究会」設置(～平成12年度末)。
- 平成11年8月 「公開基準検討部会」設置(～平成12年度末)。
- 平成12年6月 「緊急地域雇用特別交付金事業」による大規模調査を実施(～平成13年度末)。
- 平成13年4月 「震災資料の保存・利用、及び活用方策」研究会設置(～平成13年度末)。
「震災資料の保存・利用、及び活用方策」検討部会設置(～平成13年度末)。
- 平成14年4月 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」資料室が事業を引き継ぐ。
- 平成16年3月 「震災資料の公開等に関する検討委員会」設置(～平成16年度末)。

参考資料 6 - (3)

資料室受け入れ資料点数等

1 人と防災未来センター資料室所蔵資料の状況（平成 30 年 3 月末現在）

部門	件数名		総数	
二次資料	資料点数 (購入含む)	図 書	13,617	
		雑 誌	19,540	
		チラシ	1,925	
		映 像	956	
		その他	4,036	
		総 数	40,074	
	バーコード登録件数		13,513	
	購入件数		3,545	
	目次入力済件数		24,662	
	依頼状発送件数		※ 0	
	礼 状 発 送 件 数		※ 7	
ビデオ貸出本数 (件数)		※ 276 本		
		※ 164 件		
一次資料	入力 済 み 件 数	調 査 先 総 数		17,543
		資料提供者件数		5,042
		資料点数	映像・音声 (点数)	2,056
			紙 (点数)	180,345
			モノ (点数)	1,432
			写真 (点数)	6,116
		128,618 枚		
		総点数		189,949
	資料提供件数 (データ未入力を含む)		※ 16 件	
	調査回数 (データ未入力を含む)		※ 22 回	
資料室全般	相談業務件数	全 体 数	※ 15	
		解 決	※ 15	
		未 解 決	※ 0	
		入力件数	2,186	
	資料閲覧申請件数	申請件数	※ 31	
		申請資料総点数	※ 882	
	資料室利用者数		※ 4,500 人	

- ・ ※印は平成 29 年度の総計
- ・ 無印は資料室開室後の累計（平成 30 年 3 月末現在の総数）

2 平成 29 年度資料室受け入れ二次資料点数

区分	平成 29 年度 資料室受け入れ二次資料点数	平成 29 年度末現在 二次資料点数 (累計)
図 書	157	13,617
雑 誌	215	19,540
チ ラ シ	73	1,925
映 像	9	956
そ の 他	92	4,036
総 数	546	40,074

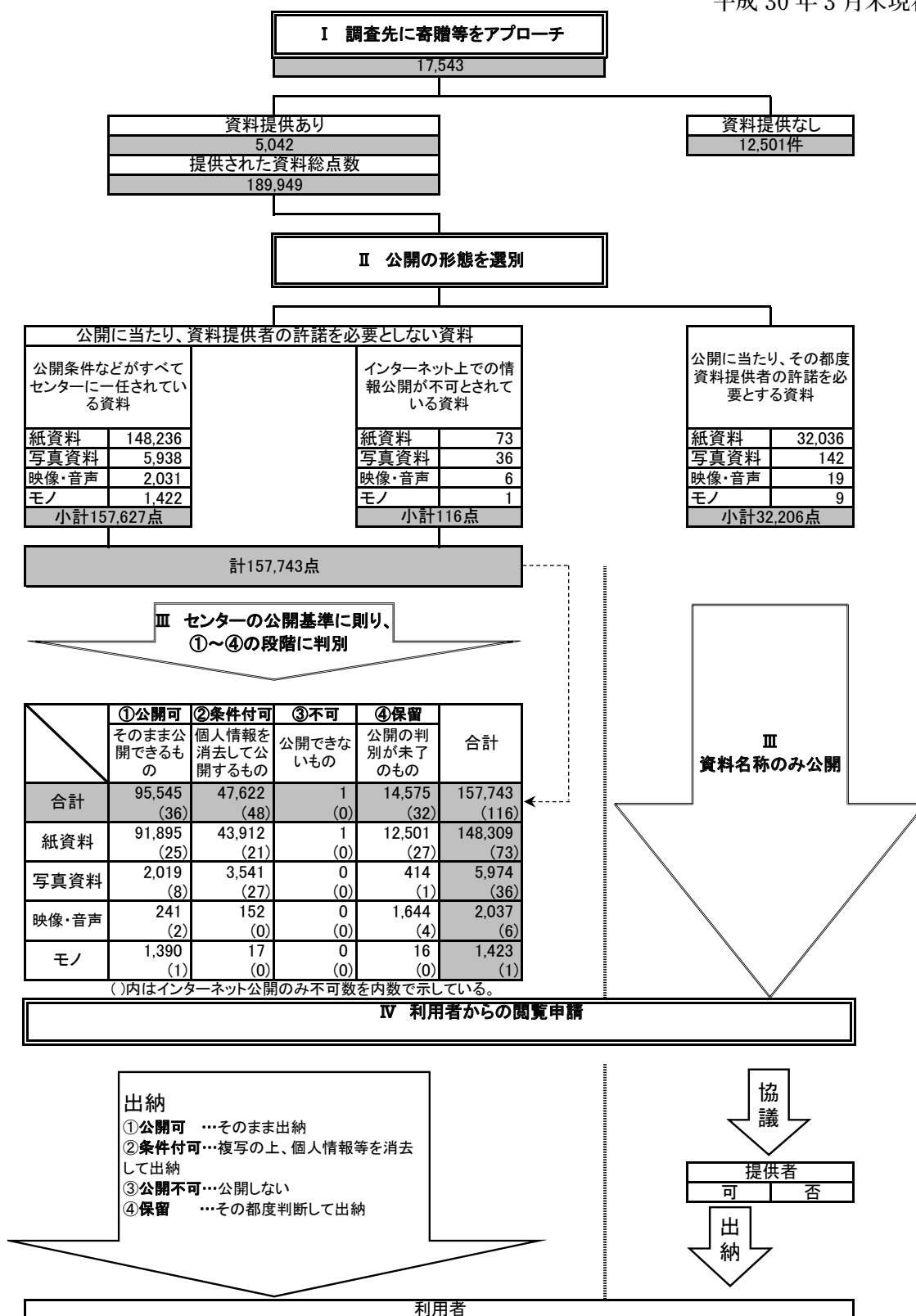
3 平成 29 年度資料室利用者数

(単位：人)

月	人数
4 月	301
5 月	326
6 月	458
7 月	305
8 月	733
9 月	425
10 月	340
11 月	314
12 月	315
1 月	477
2 月	261
3 月	245
合計	4,500

震災資料収集・公開の流れと公開形態別資料点数

平成 30 年 3 月末現在



参考資料 7

新聞記事がとりあげた人と防災未来センター

- ・ 記事抽出対象紙
朝日新聞、神戸新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞の計6紙。
神戸新聞以外はすべて大阪本社版を基本としている。
- ・ 記事抽出期間
平成29年4月1日から平成30年3月31日
- ・ 抽出方法
記事見出しあるいは記事本文に「人と防災未来センター」というキーワードを含むもの、センター関係者が取り上げられているものなど。

平成29年度センター関連記事の掲載回数

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	28	15.6
朝日新聞	24	13.4
毎日新聞	38	21.2
神戸新聞	54	30.2
日本経済新聞	6	3.4
産経新聞	29	16.2
計	179	100.0

(参考) 掲載回数累計

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	584	16.7
朝日新聞	485	13.9
毎日新聞	688	19.7
神戸新聞	1,228	35.1
日本経済新聞	134	3.8
産経新聞	377	10.8
計	3,496	100.0

- ・ 主な記事内容
 - ① イベント
例：阪神・淡路大震災23年関連事業、夏休み防災未来学校、災害被災地派遣、災害対策専門研修、センター企画展など
 - ② 人物
例：センター長、副センター長、上級研究員、主任研究員、研究員、震災資料専門員のコメントなど
 - ③ 各新聞の掲載記事の事例
 - ・ センター研究員関係
「六甲山の地形 模型で学ぶ（人と防災未来センター研究員が授業）」『毎日新聞』4月17日
 - ・ センター行事・資料室関係
「揺れ方の違い 免震車で体験」『読売新聞』11月18日
「私の記憶 モノ語る（震災資料語り～ものがたり～）」『朝日新聞』12月23日

参考資料 8

災害対策専門研修トップフォーラムの過去の開催状況一覧

平成 29 年度までに 31 道府県で開催した。

地域\年度	～ 19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
北海道・東北	01 北海道										○
	02 青森県										
	03 岩手県					○					
	04 宮城県			○							
	05 秋田県	○									
	06 山形県						○				
	07 福島県										○
関東	08 茨城県										
	09 栃木県									○	
	10 群馬県										
	11 埼玉県			○							
	12 千葉県										
	13 東京都										
	14 神奈川県										
中部	15 新潟県		○								
	16 富山県									○	
	17 石川県										
	18 福井県										
	19 山梨県										
	20 長野県				○					○	
	21 岐阜県						○				
	22 静岡県										○
	23 愛知県					○					
	24 三重県			○							
近畿	25 滋賀県		○								
	26 京都府										
	27 大阪府								○		
	28 兵庫県	○	○		○	○		○			
	29 奈良県								○		
	30 和歌山県			○							
中国・四国	31 鳥取県	○				○					
	32 島根県										
	33 岡山県								○		
	34 広島県							○			
	35 山口県										
	36 徳島県	○									
	37 香川県			○							
	38 愛媛県										
	39 高知県						○				
九州・沖縄	40 福岡県						○				
	41 佐賀県					○					
	42 長崎県				○						
	43 熊本県			○							
	44 大分県										
	45 宮崎県							○			
	46 鹿児島県										
	47 沖縄県										

参考資料 8

災害対策専門研修「トップフォーラム in 北海道」カリキュラム

日 時：平成29年10月30日（月）13：00～17：05

場 所：ホテルポールスター札幌（北海道札幌市中央区北4条西6丁目）2Fホール

主 催：北海道、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 北海道知事 高橋はるみ
第1部 講義	13：05～13：45 (40)	北海道における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：45～13：55 (10)	政府の初動対応 内閣府 官房審議官（防災担当） 伊丹 潔
	13：55～14：10 (15)	災害や危機事案への対応に向けて 北海道 総務部 危機管理監 橋本 彰人
	14：10～14：25 (15)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 主任研究員 本塚 智貴
	14：25～14：45 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター リサーチフェロー (株) エービーシー・リブラ 専任マネージャー 木戸 崇之
14：45～14：55 (10)		休 憩
第2部 演習	14：55～16：30 (95)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 研究員 辻岡 綾 ・ワークショップ ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部
	16：30～16：45 (15)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：45～16：50 (5)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター リサーチフェロー (株) エービーシー・リブラ 専任マネージャー 木戸 崇之
	16：50～16：55 (5)	グループごとの振り返り 人と防災未来センター 研究部
16：55～17：04 (09)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
17：04～17：05 (01)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 白石 秀俊

参考資料 8

災害対策専門研修「トップフォーラム in 静岡」カリキュラム

日 時：平成29年11月10日（金）13：00～17：00

場 所：静岡県総合研修所「もくせい会館」2階 第1会議室
（静岡市葵区鷹匠町3-6-1）

主 催：静岡県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 静岡県知事 川勝 平太
第1部 講義	13：05～13：45 (40)	静岡県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：45～13：55 (10)	政府の初動対応 内閣府 官房審議官（防災担当） 伊丹 潔
	13：55～14：15 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 主任研究員 坪井 聖太郎
	14：15～14：35 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター 特別研究調査員 NHK 静岡放送局放送部副部長（アナウンス） 横尾 泰輔
	14：35～14：50 (15)	休 憩
第2部 演習	14：50～16：22 (92)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 中林 啓修 ・ワークショップ ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部
	16：22～16：40 (18)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：40～16：45 (5)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター 特別研究調査員 NHK 静岡放送局放送部副部長（アナウンス） 横尾 泰輔
	16：45～16：50 (5)	グループごとの振り返り 人と防災未来センター 研究部
	16：50～16：57 (07)	全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：57～17：00 (03)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 白石 秀俊

参考資料 8

災害対策専門研修「トッpfォーラム in 福島」カリキュラム

日 時：平成29年11月15日（水）13：00～17：00

場 所：ホテル福島グリーンパレス（福島市太田町13-53）

第1部講義：「孔雀」、第2部演習：「瑞光」

主 催：福島県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (5)		開講式 福島県副知事 鈴木 正晃
第1部講義	13：05～13：50 (45)	福島県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：50～14：10 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究主幹 宇田川真之
	14：10～14：30 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター 特別研究調査員 NHK 静岡放送局放送部副部長（アナウンス） 横尾 泰輔
14：30～14：45 (15)		休 憩
第2部演習	14：45～16：20 (95)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 松川 杏寧 ・ワークショップ ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
	16：20～16：35 (15)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：35～16：40 (5)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター 特別研究調査員 NHK 静岡放送局放送部副部長（アナウンス） 横尾 泰輔
	16：40～16：46 (6)	グループごとの振り返り ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
16：46～16：56 (10)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：56～17：00 (4)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 白石 秀俊



参考資料 8

平成 29 年度春期 災害対策専門研修

マネジメントコース：ベーシック

主担当：研究員 辻岡 綾

	6月20日(火)	6月21日(水)	6月22日(木)	6月23日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 辻岡 綾 人と防災未来センター研究員	行政における災害対応業務の実態 小野山 正 兵庫県企画県民部災害対策局災害対策課長（関西広域連合広域防災局災害対策課） 後藤 武志 飯田市危機管理室防災係係長 ・大規模災害における行政対応の経験や、地域に向けての防災・減災活動の経験について学び、災害対応業務の実態について学ぶ	危機管理総論 石原 凌河 人と防災未来センターリサーチフェロー（龍谷大学政策学部 講師） ・危機管理の基礎的な考え方と実務上のとらえ方を理解する	災害史と社会 福和 伸夫 人と防災未来センター上級研究員（名古屋大学減災連携研究センター長・教授） ・過去の震災が歴史に与えた影響を学びつつ、現代の都市と社会の分析をとおして、その脆弱性と災害像を予測し、備えの方法を考える
2限 11時00分 ～ 12時15分		災害をもちたす自然現象の理解（風水害） 川池 健司 京都大学防災研究所准教授 ・風水害の発生過程とその対応方法を理解し、自治体の対応を考える	災害と男女共同参画 斉藤 容子 人と防災未来センターリサーチフェロー ・災害時における男女共同参画の視点をこれまでの事例を踏まえて理解を深める	災害関連法体系基礎 山崎 栄一 関西大学社会安全学部教授 ・災害対応にあたって使える権限・財源を理解する ・災害対策基本法・災害救助法の守備範囲を理解する
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害過程論 松川 杏寧 人と防災未来センター主任研究員 ・災害発生後に、被災者が直面する様々な課題を時間軸から理解する	災害をもちたす自然現象の理解（地震・津波） 清野 純史 人と防災未来センター上級研究員（京都大学大学院工学研究科教授） ・地震発生のメカニズムと、それによる物理的・社会的被害を理解し、自治体の対応を考える	我が国における災害対応の動向 後藤 隆昭 内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（事業推進担当）付企画調整官 ・東日本大震災・熊本地震等の経験を踏まえて、最新の国の災害対応体制について理解する	被災者対応総論 重川 希志依 常葉大学社会環境学部教授 ・災害時に行政が対応すべき被災者支援業務の内容とその流れについて理解する
4限 14時45分 ～ 16時00分	（センター展示施設見学ワークショップ） 災害時に被災者が直面する生活課題 辻岡 綾 人と防災未来センター研究員 ・災害発生時に人びとが直面する生活上の課題を具体的にイメージする	地域防災計画論 今石 佳太 人と防災未来センター disasterManager（前芦屋市企画部市長室長） ・地域防災計画の法的な位置づけとそれを補完するプログラム、活用方策の事例を理解する	都市の復興概念と復興まちあるき 小林 郁雄 人と防災未来センター上級研究員（兵庫県立大学 特任教授） ・北淡震災記念公園野島断層保存館を訪問し、阪神・淡路大震災の被災地での復興過程と様々な取り組みを学ぶ	全体討論会 辻岡 綾 人と防災未来センター研究員 ・参加者の意見交換から、災害対応における姿勢を学ぶ
5限 16時15分 ～ 17時30分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 開講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	※講師、内容、時間帯については変更の可能性あります。

マネジメントコース：エキスパート A

主担当：主任研究員 本塚 智貴

	6月6日(火)	6月7日(水)	6月8日(木)	6月9日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	（センター展示見学：希望者のみ）	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 人と防災未来センター上級研究員（同志社大学社会学部 教授） 山本 康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表 平野 昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、ボランティアの果たす役割、市民の力の特徴と行政との関係のあり方について理解を深める	危機対応時の組織論（情報システム） 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・災害発生前後の情報の収集・整理と共有の重要性を理解し、情報システム（GISなど）の活用方策を学ぶ	災害対応ワークショップ 本塚 智貴 人と防災未来センター主任研究員 ・演習を通じて目標管理型災害対応の考え方を身につける
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 本塚 智貴 人と防災未来センター主任研究員	災害対応概論（復旧・復興期） 澤田 雅浩 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 ・復旧・復興期の対応と課題について学ぶ	危機対応時の組織論（戦略的な広報について） 川西 勝 人と防災未来センターリサーチフェロー（読売新聞大阪本社編集局編集委員） ・災害時の情報提供方法、報道機関対応の課題を学ぶ	災害対応各論（被災者救護の実践的取り組み） 三上 晴由貴 新潟県福祉保健部医療事業課 地域医療班 政策企画員 ・災害救助法適用事例等から災害救助法の理解を深める
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害対応概論（初動期） 辻岡 綾 人と防災未来センター研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー（長野建設事務所 維持管理課 管理係 課長補佐兼管理係長） ・初動対応時の対応と課題について理解を深める	災害対応各論（災害時の物流対応） 興村 徹 株式会社日通総合研究所 Senior Executive Officer (Sales Development Unit) ・災害直後から被災者の生活支援のための物流対応について、自治体担当部署のみならず民間運送会社などの能力も活用した実践的な事例を学ぶ	民間企業と連携した災害対応 朝倉 一昌 一般社団法人危機管理情報共有基盤代表理事（理事長） 水谷 嘉浩 Jパックス株式会社 代表取締役全国段ボール工業組合連合会 防災担当アドバイザー ・民間企業と連携した平常時の減災対策や災害時の応急対策について、取り組み事例に基づき学ぶ	全体振りかえり ワークショップ 本塚 智貴 人と防災未来センター主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応概論（応急期） 中林 啓修 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー（長野建設事務所 維持管理課 管理係 課長補佐兼管理係長） ・応急対応時の対応と課題について理解を深める	災害対応各論（災害時の物流対応） 興村 徹 株式会社日通総合研究所 Senior Executive Officer (Sales Development Unit) ・災害直後から被災者の生活支援のための物流対応について、自治体担当部署のみならず民間運送会社などの能力も活用した実践的な事例を学ぶ	災害対応各論（広域連携） 阪本 真由美 人と防災未来センターリサーチフェロー（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授） ・災害時の被災自治体の対応において、広域連携のあり方について理解を深める	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 開講式
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害対応各論（医療活動） 甲斐 達朗 人と防災未来センター上級研究員（済生会千里病院 千里救命救急センター 顧問） ・災害現場の医療活動体制について理解を深める	災害対応演習（クマ演習） 本塚 智貴 人と防災未来センター主任研究員 ・危機発生時の具体的な課題をもとに、災害対応の考え方について学ぶ	危機対応各論（行政と自衛隊との連携） 早川 喜代司 （元 陸上自衛隊第3師団飛行隊長） ・行政と自衛隊の連携について理解を深める	※内容や時間帯については変更の可能性あります。
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	※内容や時間帯については変更の可能性あります。

マネジメントコース：エキスパートB

主担当：主任研究員 松川 杏寧

	6月13日(火)	6月14日(水)	6月15日(木)	6月16日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	(センター展示見学：希望者のみ)	標準的な災害対応システム論 牧 紀男 京都大学／震災資料研究主幹 ・災害対応における標準的業務手順や対応手法について学ぶ	被災者行政の流れと課題 菅野 拓 人と防災未来センター主任研究員 ・被災者の生活再建を見据えた行政業務の一連の流れと課題について、初期段階での留意点やマネジメントについて学ぶ	災害時要配慮者への対応 立木 茂雄 同志社大学 社会学部 教授 ・災害時要配慮者の実態とそれを踏まえた対応について学ぶ
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 松川 杏寧 人と防災未来センター主任研究員	災害時の健康危機管理 富田 洋介 人と防災未来センター主任研究員 ・被災住民の健康危機に対する行政の支援について理解を深める	業務継続計画論 紅谷 昇平 人と防災未来センターリサーチフェロー (兵庫県立大学 防災教育研究センター准教授) ・各公共機関におけるBCPの意味と重要性について、また、その導入について、具体的な事例を交えて理解する	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の全体像について理解する
3限 13時15分 ～ 14時30分	避難の実態と課題 宇田川 真之 人と防災未来センター研究主幹 ・災害種別ごとに異なる避難行動のタイミングと避難が困難な要援護者への対応について学ぶ	災害対策本部の空間構成設計演習 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト取締役マネージャー・主席コンサルタント ・災害対策本部のレイアウトの重要性、また適切なレイアウトについて、演習を交えて理解する	ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 矢守 克也 人と防災未来センター上級研究員 (京都大学防災研究所巨大災害研究センター・教授・センター長) ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえて、災害時の対応イメージを豊かにすることの重要性とその方法について、ゲーミング手法を活用して学ぶ	災害の対応事例と教訓 齋藤 富雄 関西国際大学教授セーフティマネジメント教育研究センター長 (元兵庫県防災監) ・災害事例をもとに、災害対応の課題と対応方法の考え方について理解を深める・事例をもとに意見交換を行い、災害対応のあり方について理解を深める
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初期の被災者に対する接し方及び災害対応業務を行う上でのマインドケアについて			全体振り返りワークショップ 松川 杏寧 人と防災未来センター主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	防災訓練設計 近藤 伸也 宇都宮大学 地域デザイン科学部 准教授 ・地域や居住者に向けての防災・減災訓練をどのように設計すればよいのか、具体的事例を交えつつ学ぶ	災害情報の受発信手法 木戸 崇之 人と防災未来センターリサーチフェロー (株) エービーシー・リブラ「おはようゴール」ニュース担当デスク ・被害情報の受信(収集)と発信(広報)およびこれらを総合した情報共有のあり方について学ぶ	NGO/NPOの災害対応と協働 明城 徹也 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長 菅野 拓 人と防災未来センター主任研究員 ・NGO/NPOに対する理解を深め、災害支援における民間と行政の連携について学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	※内容や時間帯については変更の可能性あります。

参考資料 8

平成 29 年度秋期 災害対策専門研修

マネジメントコース：エキスパート A

主担当：研究員 高田 洋介

	10月10日(火)	10月11日(水)	10月12日(木)	10月13日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 人と防災未来センター 上級研究員 (同志社大学社会学部 教授) 山本 康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表 平野 昌	災害対応ワークショップ 中林 啓修 人と防災未来センター 主任研究員 ・演習を通じて目標管理型災害対応の 考え方を身につける	危機対応時の組織論（戦略的な広報に ついて） 川西 勝 人と防災未来センター リサーチフェロー (読売新聞大阪本社編集局編集委員) ・災害時の情報提供方法、報道機関対 応の課題を学ぶ
2限 11時00分 ～ 12時15分		ハローボランティア・ネットワークみえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、 ボランティアの果たす役割、市民の 力の特徴と行政との関係のあり方について 理解を深める		災害対応各論（災害時の物流対応） 興村 徹 株式会社日通総合研究所 顧問 ・災害直後から被災者の生活支援のため の物流対応について、自治体担当 部署のみならず民間運送会社などの 能力も活用した実践的な事例を学ぶ
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害対応概論（初動期） 本塚 智貴 人と防災未来センター 主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センター リサーチフェ ロー（長野建設事務所 維持管理課 管 理係 課長補佐兼管理係長） ・初動対応時の対応と課題について理 解を深める	災害対応各論（医療活動） 甲斐 達朗 人と防災未来センター 上級研究員 (済生会千里病院 千里救命救急セン ター 顧問) ・災害現場の医療活動体制について理 解を深める	民間企業と連携した災害対応 朝倉 一昌 一般社団法人危機管理 情報共有基盤代表理事（理事長） 水谷 嘉浩 Jパックス株式会社 代 表取締役 全国段ボール工業組合連 合会 防災担当アドバイザー ・民間企業と連携した平常時の減災対 策や災害時の応急対策について、取 組み事例に基づき学ぶ	災害対応各論（被災者救護の実践的 取り組み） 三上 晴由貴 新潟県福祉保健部医務課事務 地域医 療班 政策企画員 ・災害救助法適用事例等から災害救助 法の理解を深める
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応概論（応急期） 松川 杏寧 人と防災未来センター 主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センター リサーチフェロー（長野建設事務所 維 持管理課 管理係 課長補佐兼管理係長） ・応急対応期の対応と課題について理 解を深める	危機対応各論（行政と自衛隊との連携） 早川 喜代司 (元 陸上自衛隊第3師団飛行隊長) ・行政と自衛隊の連携について理解を 深める	災害対応各論（広域連携） 阪本 真由美 人と防災未来センター リサーチフェ ロー（兵庫県立大学大学院 減災復 興政策研究科 准教授） ・災害時の被災自治体の対応におい て、広域連携のあり方について理解 を深める	全体振りかえり ワークショップ 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを 行い、研修で得た知識を実践に活か す方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害対応概論（復旧・復興期） 澤田 雅浩 兵庫県立大学大学院 減災復興政策 研究科 准教授 ・復旧・復興期の対応と課題について 学ぶ	災害対応演習（クマ演習） 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員 ・危機発生時の具体的な課題をもと に、災害対応の考え方について学ぶ	危機対応時の組織論（情報システム） 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・災害発生前後の情報の収集・整理と 共有化の重要性を理解し、情報シス テム（GISなど）の活用方法を学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	※内容や時間帯については変更の可能 性があります。

マネジメントコース：エキスパート B

主担当：主任研究員 菅野 拓

	10月17日(火)	10月18日(水)	10月19日(木)	10月20日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	(センター)展示見学：希望者のみ)	標準的な災害対応システム論 牧 紀男 人と防災未来センター 震災資料研究 主幹（京都大学防災研究所教授） ・災害対応における標準的業務手順や 対応手法について学ぶ	災害時要配慮者への対応 立木 茂雄 人と防災未来センター 上級研究員 (同志社大学 社会学部 教授) ・災害時要配慮者の実態とそれを踏ま えた対応について学ぶ	災害の対応事例と教訓 齋藤 雷雄 関西国際大学 副学長 教 授（元兵庫県防災監） ・災害事例をもとに、災害対応の課題 と対応方法の考え方について理解を 深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害 対応のあり方について理解を深める
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 菅野 拓 人と防災未来センター 主任研究員	災害対策本部の空間構成設計演習 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト取締役 マネージャー・首席コンサルタント ・災害対策本部のレイアウトの重要 性、また適切なレイアウトについて、 演習を交えて理解する	業務継続マネジメント論 紅谷 昇平 人と防災未来センター リサーチフェロー（兵庫県立大学大 学院 減災復興政策研究科 准教授） ・各公共機関における災害時の業務継 続の重要性について、また、その方 法について、具体的な事例を交えて 理解する	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター 長 ・事例を通じて災害による被害過程の 全体像について理解する
3限 13時15分 ～ 14時30分	避難の実態と課題 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・多様な災害種別や状況によって異な る避難行動の在り方や、避難情報の 発信・伝達・内容などについて学ぶ		被災者行政の流れと課題 菅野 拓 人と防災未来センター 主任研究員 ・被災者の生活再建を見据えた行政業 務の一連の流れと課題について、初 期段階での留意点やマネジメントに ついて学ぶ	災害時の健康危機管理 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員 ・被災住民の健康危機に対する行政の 支援について理解を深める
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初期の被災者に対する接 し方及び災害対応業務を行う上での マインドケアについて	ゲーミング手法を活用した防災・減 災ワークショップ 矢守 寛也 人と防災未来センター 上級研究員（京 都大学防災研究所 巨大災害研究セン ター・教授・センター長） ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえつ つ、災害時の対応イメージを豊かに することの重要性とその方法につい て、ゲーミング手法を活用して学ぶ	NGO/NPO の災害対応と協働 明城 徹也 全国災害ボランティア支援団体ネッ トワーク（JVOAD）事務局長 菅野 拓 人と防災未来センター 主任研究員 ・NGO/NPO に対する理解を深め、災 害支援における民間と行政の連携に ついて学ぶ	全体振りかえりワークショップ 菅野 拓 人と防災未来センター 主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを 行い、研修で得た知識を実践に活か す方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	図上訓練設計 藤原 宏之 伊勢市危機管理部危機管理課 主事 ・行政職員に向けての図上訓練をどの ように設計すればよいのか、具体的 事例を交えつつ学ぶ。		災害時のメディア対応 木戸 崇之 人と防災未来センター リサーチフェロー（株） エービーシー・リブラ 専任マネージャー） ・メディアに振り回され、災害対応を 複雑化させる負のスパイラルを離 れ、マスメディアやその他の手段を 活用して、被災者と職員の状況を好 転させる情報の受発信方法を学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	※内容や時間帯については変更の可能 性があります。

アドバンスト／防災監・危機管理監コース

主担当：主任研究員 中林 啓修

10月26日(木)	10月27日(金)
(9:30～ センター展示見学：希望者のみ)	9:30～11:00 90分 危機対応組織論 河田 恵昭 人と防災未来センター センター長 ・危機対応をする上で首長を補佐する職にある人が必要とする能力について理解する。
10:30～10:45 開講式 10:45～11:30 オリエンテーション 中林 啓修 人と防災未来センター 主任研究員	11:15～12:30 75分 災害対応特論 室崎 益輝 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科長 ・災害の状況に応じて既存法制度の限界部分、対応策についての指示、判断ができるようになるための考えを深める。講義は討論形式で行う。
11:45～12:30 45分 目標管理型災害対応論 中林 啓修 人と防災未来センター 主任研究員 ・目標管理型災害対応の考え方やその具体的内容について、過去の災害事例を踏まえ理解する。	
休 憩	
13:30～15:00 90分 行政対応特論① 植松 浩二 熊本市 副市長 ・市町村における災害対応事例から課題や教訓を学ぶ。	13:30～16:00 150分 (途中休憩あり) 災害対応検討ワークショップ ・演習を通じて目標管理型災害対応の考え方を身につける。 室崎 益輝 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科長 中林 啓修 人と防災未来センター 主任研究員
15:15～17:30 135分 (途中休憩を含む) 行政対応特論② 齋藤 富雄 関西国際大学 副学長 元兵庫県防災監 ・県における大規模災害時の対応事例を知り、災害発生後の対応や課題と首長に助言すべき内容を学ぶ。講義は討論形式で行う。	16:00～16:15 レポートタイム 16:15～16:30 閉講式
17:30～17:45 レポートタイム	

※内容や時間帯については変更の可能性があります。

参考資料 8

平成 29 年度 災害対策専門研修特設コース

図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース

主担当：主任研究員 荒木 裕子

平成29年12月12日(火)	平成29年12月13日(水)
(10:00～10:10) 開講式 (10:10～10:25) オリエンテーション 主任研究員 荒木裕子 演習の全体像、構成について	(9:00～9:05) オリエンテーション (研修2日目) (9:05～9:30) 講義：災害時の広報対応 特別研究調査員 横尾泰輔
(10:25～10:55) 講義：災害対策本部での業務 主任研究員 中林啓修	(9:30～9:35) 移動
(10:55～11:00) 移動	(9:35～9:50) 作戦会議
(11:00～11:30) 図上訓練ルール説明 1	(9:50～12:20) 第2回図上訓練 発災3日目 ※途中で、下記を実施 ・本部事務局ミーティング
(11:30～12:15) 班分け+班ごとのガイダンス	(12:20～12:35) 本部長レク 1週間後までの災害対応計画の検討
(12:15～13:15) 休 憩	(12:35～13:00) 記者会見の準備 想定 Q&A 等
(13:15～14:10) 作戦会議	(13:00～14:00) 休 憩
(14:10～16:35) 第1回図上訓練 地震発生当日(1日目) ※途中で、下記を実施 ・本部事務局ミーティング	(14:00～15:15) 記者会見シミュレーション 災害対応(演習)を踏まえた記者発表を行う。
(16:35～17:00) 本部長レク 状況認識の統一など	(15:15～15:25) 休 憩
(17:00～17:10) 休 憩	(15:25～17:20) 振り返り・講評 各班ごとに振り返り、全体講評
(17:10～17:50) 振り返り 各グループ・担当ごとに振り返り	(17:20～17:30) 閉講式
(17:50～18:00) 講評	
(18:00～18:30) 作戦会議 翌日の図上訓練に向けた改善、準備、資料配布	



フォローアップセミナー

於：人と防災未来センター 東館 4F 兵庫県立大学大学院 減災復興研究科 大教室
東館 6F 第 1・第 2 会議室

テーマ：災害対応力の向上に資する技術・ツールの共有

主担当：坪井主任研究員 副担当：辻岡研究員、松川主任研究員

平成30年2月28日(水)	平成30年3月1日(木)
	(09:30～11:00) 「平成 29 年度災害対応・防災事例報告」 ・各自治体における災害対応事例、防災にかかわる施策の実施等について情報交換を行う。
	(休憩 11:00～11:15)
	(11:15～12:30) 「平成 29 年度災害対応・防災事例報告」 ・各自治体における災害対応事例、防災にかかわる施策の実施等について情報交換を行う。
(13:00～13:10) 開講式	(昼休憩 12:30～13:30)
(13:10～13:45) オリエンテーション・自己紹介	(13:30～15:45) ワークショップ 「災害対応力の向上に資する技能・ツールの共有」 第一部 災害対応時の業務の効率化、状況認識の統一に資する技術等に関する WS・総合討論 第二部 オープンデータの活用と地図化技法（簡易・無償 GIS による PC 実機演習）
(休憩:13:45～14:00)	
(14:00～17:30) ○人と防災未来センター 平成 29 年度中核的研究プロジェクト報告 ～広域巨大災害における組織間連携方策のあり方に関する研究～ ・各研究員からの報告 ・研究成果をもとにした災害対応のあり方に関する参加者の意見交換 ・演習（簡易型図上訓練）	(15:45～15:55) 事務連絡 「災害対策専門研修サポーター制度について」 ・平成 30 年度の人と防災未来センター災害対策専門研修サポーター制度について説明。・平成 30 年度の人と防災未来センター災害対策専門研修について説明。
	(15:55～16:10)・レポートタイム
	(16:10～16:20) 閉校式

参考資料 8

平成 29 年度 防災スペシャリスト養成研修

(有明の丘 1 期)

防災基礎						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月7日	講座名	防災基礎総論	ハザードのメカニズムと実態			地域の脆弱性と被害の実態
	講師名	牛山素行 (静岡大学)	牛山素行 (静岡大学) 新堀賢志 (火山防災推進機構) 林能成 (関西大学)			牛山素行 (静岡大学)
9月8日	講座名	防災行政概要／災害法体系／防災計画		災害対応過程と態度を学ぶ		全体討論
	講師名	安邊英明 (内閣府) 高橋信博 (内閣府) 松田慧吾 (内閣府)		竹本加良子 (サイエンスクラフト)		牛山素行 (静岡大学)

災害への備え						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月12日	講座名	「災害への備え」総論	行政の BCM	住民啓発	企業防災	「災害への備え」ワークショップ
	講師名	丸谷浩明 (東北大学)	丸谷浩明 (東北大学)	国崎信江 (危機管理教育研究所)	武田賢治 (日本生活協同組合連合会)	丸谷浩明 (東北大学)
9月13日	講座名	「災害への備え」としての地域防災計画	防災教育・災害教訓の伝承	地域の自主的な防災活動	災害ボランティア	全体討論
	講師名	鍵屋一 (跡見学園女子大学)	桜井愛子 (東洋英和女学院大学)	増田章司(国分寺市) 櫻井幹三 (高木町自治会)	栗田暢之 (レスキューストックヤード)	丸谷浩明 (東北大学)

警報避難						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月14日	講座名	警報避難総論	警報等の種類と内容	避難勧告等の判断・伝達	風水害における警報と避難	風水害におけるタイムライン計画
	講師名	井ノ口宗成 (静岡大学)	高橋賢一 (気象庁)	磯部良太 (内閣府)	井ノ口宗成(静岡大学) 森下邦治(福知山市)	井ノ口宗成(静岡大学) 森下邦治(福知山市) 越野修三(岩手大学)
9月15日	講座名	土砂災害における警報と避難	土砂災害の事例に学ぶ	避難場所・避難所の認定	避難場所・避難所の適否判断演習	全体討論
	講師名	池谷浩(砂防・地すべり技術センター)	井ノ口宗成(静岡大学) 越野修三(岩手大学)	井ノ口宗成(静岡大学) 三宅英知(京都府)	井ノ口宗成(静岡大学) 越野修三(岩手大学) 三宅英知(京都府)	井ノ口宗成 (静岡大学)

応急活動・資源管理						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月20日	講座名	応急活動・資源管理総論	初動対応における国との連携	地方公共団体間の相互応援と受援体制	活動拠点・環境の確保	資源管理演習
	講師名	宇田川真之 (人と防災未来センター)	長岡秀彦 (内閣府)	太田真樹(内閣府) 中野保(千葉市)	森山貢(倉吉市) 小嶋正稔(東洋大学)	宇田川真之 (人と防災未来センター)
9月21日	講座名	災害廃棄物処理	救援物資の調達	救援物資の輸配送	救援物資ロジスティクス演習	全体討論
	講師名	切川卓也(環境省) 大川敏彰 (全国都市清掃会議)	古澤通規 (コメリ災害対策センター) 堂本敏雄 (セブンイレブン・ジャパン)	内田浩幸(佐川急便) 吉田将一 (全日本トラック協会)	宇田川真之 (人と防災未来センター)	宇田川真之 (人と防災未来センター)



被災者支援						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月26日	講座名	被災者支援総論	災害救助法と生活再建支援法	避難所のライフサイクル	避難所運営の実際	避難所のライフサイクル（演習）
	講師名	田村圭子（新潟大学）	佐藤知和（内閣府） 湯澤信行（内閣府）	太田智久（富士市）	国崎信江（危機管理教育研究所）	田村圭子（新潟大学） 太田智久（富士市）
9月27日	講座名	避難生活の支援	医療による被災者支援	多様な主体による被災者支援／被災者支援の個別課題	生活再建支援業務	被災者支援のタイムライン策定（演習）／全体討論
	講師名	石上和男（新潟医療福祉大学） 相馬幸恵（新潟県）	阿南英明（藤沢市民病院）	小海崇史（新潟県） 山本晋吾（人と防災未来センター）	田村圭子（新潟大学） 高橋邦夫（豊島区） 田中真理子（豊島区）	田村圭子（新潟大学）

復旧・復興						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月16日	講座名	復旧・復興総論	公共基盤の復旧（基盤復興Ⅰ）	仮設住宅（生活復興Ⅰ）		コミュニティ再生（社会復興）
	講師名	中林一樹（明治大学）	武藤亨次（内閣府）	佐藤知和（内閣府）・小路永守（熊本県） 東修（熊本県）・細貝和司（新潟県）		稲垣文彦（中越防災安全推進機構）
10月17日	講座名	市街地の復興まちづくり（基盤復興Ⅱ）	住まいの再建（生活復興Ⅱ）	地域産業の復興と雇用確保（産業復興）	復旧・復興演習（復興計画の策定体制）	全体討論
	講師名	江田隆三（地域計画連合）	塩崎賢明（立命館大学）	永松伸吾（関西大学）	中林一樹（明治大学）	中林一樹（明治大学）

指揮統制						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月3日	講座名	指揮統制総論	指揮統制の現状		指揮統制の世界標準	日本社会に適した指揮統制のあり方
	講師名	林春男（防災科学技術研究所）	平野公三（大槌町） 宮西義憲（芽室町）		熊丸由布治（日本防災デザイン）	林春男（防災科学技術研究所） 熊丸由布治（日本防災デザイン）
10月4日	講座名	リーダーシップ	参謀としての災害対策本部運営	災害広報演習		全体討論
	講師名	林春男（防災科学技術研究所）	越野修三（岩手大学）	高島哲夫（防災科学技術研究所） 木戸崇之（エー・ビー・シーリブラ） 辻岡綾（人と防災未来センター）		林春男（防災科学技術研究所）

対策立案						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月5日	講座名	対策立案総論	計画立案プロセス	地図による状況認識の統一	災害対策本部運営演習	
	講師名	林春男（防災科学技術研究所）	林春男（防災科学技術研究所）	田口仁（防災科学技術研究所）	新堀賢志（火山防災推進機構）	
10月6日	講座名	効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習		応急期の政府支援		全体討論
	講師名	林春男（防災科学技術研究所） 東田光裕（防災デザイン研究会） 元谷豊（サイエンスクラフト）		林春男（防災科学技術研究所）・明田大吾（消防庁）・渡辺政晃（防衛省） 中尾節也（警察庁）・吉田勝昭（海上保安庁）・田中克直（国土交通省） 阿南英明（藤沢市民病院）		林春男（防災科学技術研究所）

人材育成						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月10日	講座名	人材育成総論	訓練・研修の実際	地域の防災リーダーの育成	訓練企画運営演習Ⅰ (討議型図上演習)	
	講師名	黒田洋司 (消防防災科学センター)	重高浩一(内閣府) 山本晋吾 (人と防災未来センター)	重川希志依 (常葉大学)	重川希志依(常葉大学) 元谷豊(サイエンスクラフト)	
10月11日	講座名	訓練企画運営実践Ⅱ (状況付与型図上演習)		訓練・研修企画手法	人材育成プログラム作成演習	
	講師名	黒田洋司(消防防災科学センター) 元谷豊(サイエンスクラフト) 石原輝久(サイエンスクラフト)		近藤伸也 (宇都宮大学)	黒田洋司(消防防災科学センター) 鍵屋一(跡見学園女子大学) 近藤伸也(宇都宮大学) 渡邊浩一郎(館山市)	

総合監理						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月12日	講座名	総合防災政策	総合的な被害抑止施策の実施		リスク評価に基づく災害対応の検証	防災政策演習
	講師名	岩田孝仁 (静岡大学)	長尾聡(新潟県) 池谷浩(砂防・地すべり技術センター) 中川和樹(神戸市)・岩田英二(東京都)		山本晋吾 (人と防災未来センター) 西尾朋章(堺市)	岩田孝仁 (静岡大学)
10月13日	講座名	応急対策の実態	大規模災害の検証と対応	災害対策本部体制		全体討論
	講師名	木村敬 (内閣府)	渡真利論 (内閣府)	岩田孝仁(静岡大学)・長尾聡(新潟県) 元谷豊(サイエンスクラフト)		岩田孝仁 (静岡大学)

(有明の丘 2期)

防災基礎						
		1限	2限	3限	4限	5限
1月25日	講座名	防災基礎総論	ハザードのメカニズムと実態			地域の脆弱性と被害の実態
	講師名	牛山素行 (静岡大学)	牛山素行(静岡大学) 石原和弘(火山防災推進機構) 林能成(関西大学)			牛山素行 (静岡大学)
1月26日	講座名	防災行政概要／災害法体系／防災計画		災害対応過程と態度を学ぶ		全体討論
	講師名	石田潤一(内閣府) 戸谷知文(内閣府)		竹本加良子 (サイエンスクラフト)		牛山素行 (静岡大学)

災害への備え						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月14日	講座名	「災害への備え」総論	「災害への備え」としての地域防災計画	防災教育・災害教訓の伝承	企業防災	「災害への備え」ワークショップ
	講師名	丸谷浩明 (東北大学)	岩田孝仁 (静岡大学)	桜井愛子 (東洋英和女学院大学)	西村出(セブン&アイ・ホールディングス)	丸谷浩明 (東北大学)
2月15日	講座名	行政のBCM	住民啓発	地域の自主的な防災活動	災害ボランティア	全体討論
	講師名	丸谷浩明 (東北大学)	国崎信江 (危機管理教育研究所)	鈴木誉幸(つくば市) 大久保正男 (つくば市筑波区)	明城徹也 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)	丸谷浩明 (東北大学)



警報避難						
		1限	2限	3限	4限	5限
3月1日	講座名	警報避難総論	警報等の種類と内容	避難勧告等の判断・伝達	風水害における警報と避難	風水害におけるタイムライン計画
	講師名	井ノ口宗成 (静岡大学)	板井秀泰 (気象庁)	大方陽平 (内閣府)	井ノ口宗成 (静岡大学) 森下邦治 (福知山市) 高木康伸 (気象庁)	井ノ口宗成 (静岡大学) 森下邦治 (福知山市) 越野修三 (岩手大学)
3月2日	講座名	土砂災害における警報と避難	土砂災害の事例に学ぶ	避難場所・避難所の認定	避難場所・避難所の適否判断演習	全体討論
	講師名	池谷浩 (砂防・地すべり技術センター)	井ノ口宗成 (静岡大学) 越野修三 (岩手大学)	井ノ口宗成 (静岡大学)	井ノ口宗成 (静岡大学) 越野修三 (岩手大学)	井ノ口宗成 (静岡大学)

応急活動・資源管理						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月6日	講座名	応急活動・資源管理総論	初動対応における国との連携	地方公共団体間の相互応援と受援体制	災害廃棄物処理	資源管理演習
	講師名	宇田川真之 (人と防災未来センター)	伊藤孝 (内閣府)	佐野正 (内閣府) 太田康 (全国知事会) 中野保 (千葉市)	切川卓也 (環境省) 大川敏彰 (全国都市清掃会議)	宇田川真之 (人と防災未来センター)
2月7日	講座名	救援物資の輸配送	救援物資ロジスティクス演習	救援物資の調達	活動拠点・環境の確保	全体討論
	講師名	吉田将一 (全日本トラック協会) 内田浩幸 (佐川急便)	宇田川真之 (人と防災未来センター)	古澤通規 (コメリ災害対策センター) 堂本敏雄 (セブンイレブン・ジャパン) 廣瀬晃正 (セブンイレブン・ジャパン)	大塚和典 (熊本市) 小島正稔 (東洋大学)	宇田川真之 (人と防災未来センター)

被災者支援						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月22日	講座名	被災者支援総論	災害救助法と生活再建支援法	避難所のライフサイクル	避難所運営の実際	避難所のライフサイクル (演習)
	講師名	田村圭子 (新潟大学)	湯澤信行 (内閣府) 堀田朋寛 (内閣府)	太田智久 (富士市)	国崎信江 (危機管理教育研究所)	田村圭子 (新潟大学) 太田智久 (富士市)
2月23日	講座名	避難生活の支援	医療による被災者支援	多様な主体による被災者支援／被災者支援の個別課題	生活再建支援業務	被災者支援のタイムライン策定 (演習) / 全体討論
	講師名	石上和男 (新潟医療福祉大学) 相馬幸恵 (新潟県)	阿南英明 (藤沢市民病院)	小海崇史 (新潟県) 山本晋吾 (人と防災未来センター)	田村圭子 (新潟大学) 三浦弘賢 (東京都)	田村圭子 (新潟大学)

復旧・復興						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月27日	講座名	復旧復興総論	公共基盤の復旧 (基盤復興Ⅰ)	仮設住宅 (生活復興Ⅰ)		コミュニティ再生 (社会復興)
	講師名	中林一樹 (明治大学)	武藤亨次 (内閣府)	堀田朋寛 (内閣府) 小路永守 (熊本県)・東修 (熊本県) 細貝和司 (新潟県)		稲垣文彦 (中越防災安全推進機構)
2月28日	講座名	市街地の復興まちづくり (基盤復興Ⅱ)	住まいの再建 (生活復興Ⅱ)	地域産業の復興と雇用確保 (産業復興)	復旧・復興演習 (復旧・復興対策の事前準備)	全体討論
	講師名	江田隆三 (地域計画連合)	塩崎賢明 (立命館大学)	藤田千晴 (東京都中小企業診断士協会)	中林一樹 (明治大学)	中林一樹 (明治大学)

指揮統制						
		1限	2限	3限	4限	5限
1月30日	講座名	指揮統制総論	リーダーシップ	指揮統制の現状Ⅰ	指揮統制の世界標準	災害広報
	講師名	林春男 (防災科学技術研究所)	林春男 (防災科学技術研究所)	中貝宗治 (豊岡市)	熊丸由布治 (日本防災デザイン)	越野修三 (岩手大学)
1月31日	講座名	日本社会に適した 指揮統制のあり方	指揮統制の現状Ⅱ	災害広報演習		
	講師名	熊丸由布治 (日本防災デザイン)	本田敏秋 (遠野市)	高島哲夫 (防災科学技術研究所) 木戸崇之 (エー・ビー・シーリブラ) 辻岡綾 (人と防災未来センター)		

対策立案						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月1日	講座名	対策立案総論	計画立案プロセス	地図による 状況認識の統一	災害対策本部運営演習	
	講師名	林春男 (防災科学技術研究所)	林春男 (防災科学技術研究所)	花島誠人 (防災科学技術研究所)	新堀賢志 (火山防災推進機構) 山本晋吾 (人と防災未来センター)	
2月2日	講座名	応急期の政府支援		効果的な災害対応計画・マニュアル の立案演習		全体討論
	講師名	林春男 (防災科学技術研究所) 明田大吾 (消防庁)・中尾京一 (防衛省) 中尾節也 (警察庁) 吉田勝昭 (海上保安庁) 田中克直 (国土交通省) 大城健一 (川崎市立看護短大)		林春男 (防災科学技術研究所) 東田光裕 (防災デザイン研究会) 元谷豊 (サイエンスクラフト)		

人材育成						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月20日	講座名	人材育成総論	訓練・研修の実際	地域の防災 リーダーの育成	訓練企画運営演習Ⅰ (討議型図上演習)	
	講師名	黒田洋司 (消防防災科学センター)	重高浩一 (内閣府) 山本晋吾 (人と防災未来センター)	重川希志依 (常葉大学)	重川希志依 (常葉大学) 元谷豊 (サイエンスクラフト)	
2月21日	講座名	訓練企画運営実践Ⅱ (状況付与型図上演習)		訓練・研修企画 手法	人材育成プログラム作成演習	
	講師名	黒田洋司 (消防防災科学センター) 飯塚智規 (消防防災科学センター) 宇治田和 (ランドブレイン)		近藤伸也 (宇都宮大学)	近藤伸也 (宇都宮大学) 渡邊浩一郎 (館山市) 宇治田和 (ランドブレイン) 黒田洋司 (消防防災科学センター)	

総合監理						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月8日	講座名	総合防災政策	総合的な被害抑止施策の実施		リスク評価に基づ く災害対応の検証	防災政策演習
	講師名	岩田孝仁 (静岡大学)	長尾聡 (新潟県) 池谷浩 (砂防・地すべり技術センター) 中川和樹 (神戸市)・岩田英二 (東京都)		山本晋吾 (人と防災未来センター) 西尾朋章 (堺市)	岩田孝仁 (静岡大学) 長尾聡 (新潟県)
2月9日	講座名	応急対策の実態	大規模災害の検証 と対応	災害対策本部体制		全体討論
	講師名	木村敬 (内閣府)	渡眞利論 (内閣府)	涌井正之 (新潟県) 岩田孝仁 (静岡大学) 元谷豊 (サイエンスクラフト)		岩田孝仁 (静岡大学)



(地域別)

北海道						
		1限	2限	3限	4限	5限
8月3日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	重高浩一 (内閣府) 三浦紘平 (内閣府) 太田真樹 (内閣府)		渡辺寛幸 (札幌管区気象台)	元谷豊 (サイエンスクラフト)	
8月4日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	後藤祐也 (内閣府)	山本晋吾 (人と防災未来センター)	松永正大 (元全国物 流ネットワーク協会)	山口徳彦 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

福井						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月26日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	川上一郎 (内閣府) 高橋信博 (内閣府)・佐野正 (内閣府)		大洲光知夫 (福井地方気象台)	竹本加良子 (サイエンスクラフト)	
10月27日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	大方陽平 (内閣府)	山本晋吾 (人と防災未来センター)	松永正大 (元全国物 流ネットワーク協会)	田村豊一 (内閣府)	竹本加良子 (サイエンスクラフト)

島根						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月1日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	米津雅史 (内閣府) 高橋信博 (内閣府)・辻本陽琢 (内閣府)		山本雅樹 (松江地方気象台)	元谷豊 (サイエンスクラフト) 渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)	
11月2日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	大方陽平 (内閣府)	園部重治 (内閣府)	永正大 (元全国物 流ネットワーク協会)	山口徳彦 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

岩手						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月8日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	廣瀬昌由 (内閣府) 三浦紘平 (内閣府)・大亀寛 (内閣府)		小田嶋孝一 (仙台管区気象台)	元谷豊 (サイエンスクラフト) 渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)	
11月9日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	吉松直貴 (内閣府)	佐藤知和 (内閣府)	松永正大 (元全国物 流ネットワーク協会)	後藤隆昭 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

京都						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月15日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	黒田昌義（内閣府） 渡邊哲朗（内閣府）・大亀寛（内閣府）		榎本淳一 （京都地方気象台）	竹本加良子（サイエンスクラフト） 渡邊弘毅（サイエンスクラフト）	
11月16日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	磯部良太 （内閣府）	山本晋吾 （人と防災未来センター）	松永正大（元全国物 流ネットワーク協会）	長田暁格 （内閣府）	渡邊弘毅 （サイエンスクラフト）

愛媛						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月21日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	重高浩一（内閣府） 高橋信博（内閣府）・前川篤（内閣府）		船本幸二 （松山地方気象台）	元谷豊 （サイエンスクラフト）	
11月22日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	大方陽平 （内閣府）	山本晋吾 （人と防災未来センター）	松永正大（元全国物 流ネットワーク協会）	森脇淳二 （内閣府）	渡邊弘毅 （サイエンスクラフト）

山梨						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月28日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	須藤明裕（内閣府） 三浦紘平（内閣府）・松田慧吾（内閣府）		松浦和幸 （東京管区気象台）	元谷豊 （サイエンスクラフト）	
11月29日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	大方陽平 （内閣府）	高相泰忠 （内閣府）	松永正大（元全国物 流ネットワーク協会）	北島利喜 （内閣府）	渡邊弘毅 （サイエンスクラフト）

静岡						
		1限	2限	3限	4限	5限
12月13日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	佐谷説子（内閣府） 渡邊哲朗（内閣府）・小寺裕之（内閣府）		匂坂照二 （名古屋地方気象台）	元谷豊 （サイエンスクラフト）	
12月14日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	大方陽平 （内閣府）	堀田朋寛 （内閣府）	松永正大（元全国物 流ネットワーク協会）	山口徳彦 （内閣府）	渡邊弘毅 （サイエンスクラフト）

大分						
		1限	2限	3限	4限	5限
1月16日	講座名	防災行政		地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	池田泰雄（内閣府）・高橋信博（内閣府） 木村健太郎（内閣府）		栗野純造 （大分地方気象台）	元谷豊 （サイエンスクラフト）	
1月17日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	吉松直貴 （内閣府）	佐藤知和 （内閣府）	松永正大（元全国物 流ネットワーク協会）	北島利喜 （内閣府）	元谷豊 （サイエンスクラフト）

参考資料 9

センター刊行物

- (1) DRI 調査研究レポート (再掲)
 - ・ D R I 調査研究レポート Vol.38
「平成 27 年 -28 年度 特定研究プロジェクト
個別性に配慮した福祉避難所のあり方に関する研究会 報告書」
 - ・ D R I 調査研究レポート Vol.39
「平成 29 年度 研究論文・報告集」
- (2) DRI 調査レポート (再掲)
 - ・ 平成 29 年 7 月九州北部豪雨に関する現地調査報告 (No.49 2017 年 7 月)
- (3) 資料室ニュース (再掲) (Vol.63 ~ 65)
 - Vol.63 平成 29 年 7 月発行
 - Vol.64 平成 29 年 12 月発行
 - Vol.65 平成 30 年 3 月発行
- (4) その他
 - ・ 公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース Hem21 (Vol.63 ~ 68)
 - Vol.63 平成 29 年 5 月発行
 - Vol.64 平成 29 年 7 月発行
 - Vol.65 平成 29 年 9 月発行
 - Vol.66 平成 29 年 11 月発行
 - Vol.67 平成 30 年 1 月発行
 - Vol.68 平成 30 年 3 月発行
 - ・ 研究レター Hem21 Opinion (Vol.41 ~ 46)
 - Vol.41 平成 29 年 5 月号 (清野 純史 上級研究員)
 - Vol.42 平成 29 年 7 月号 (小林 郁雄 上級研究員)
 - Vol.43 平成 29 年 9 月号 (矢守 克也 上級研究員)
 - Vol.44 平成 29 年 11 月号 (山崎 登 上級研究員)
 - Vol.45 平成 30 年 1 月号 (金田 義行 上級研究員)
 - Vol.46 平成 30 年 3 月号 (立木 茂雄 上級研究員)